

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	23	学校名	静岡県立掛川特別支援学校	校長名	山崎 かおる
------	----	-----	--------------	-----	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 専門性	(ア)教育的ニーズの的確な実態把握と目標の達成	・「個別の指導計画の目標を適切な指導により達成できた」と答える教職員 100%	個別の指導計画の目標を適切な指導により達成できるようにしている。 97.6%	A	授業のあらわれについて教員間で児童生徒の情報を共有することを日々取り組み、記録や話し合いを基に個別の指導計画の目標に向かって適切な指導ができた。
	(イ)つながりのある支援と指導の充実	・「12年間の系統性や学習指導要領等の内容に沿って見直した年間指導計画と日々の授業改善ができた。」と答える教職員 100%	12年間の系統性や学習指導要領等の内容を見直した年間指導計画を作成している。 92.7%	A	昨年度までに、音楽と体育についての12年間の系統性を示した全体計画の資料を作成し、今年度は、図工・美術について、同様の資料を作成した。今後、これらの資料の活用の仕方や配慮事項について周知し、学習計画の立案に役立てながら、本校の実態に合った資料としていく。
		・「主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善できた」と答える教職員 100%	主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善している。 95.1%	A	授業研究では、グループ協議の視点を絞って提示したりグループ編成を工夫したりすることで活発な話し合いができた。助言者から受けた助言を基に具体的に授業改善に取り組む中で、問いを自分たちで解決しようとする姿を引き出すことができた。
		・「児童生徒がICT機器を活用した」と答える教職員 100%	授業の中でICTを活用する場面を、授業カードに記入して取り組んだ。 88.6%	B	ICT活用研修やミニ学習会で学んだことを生かし、児童生徒自身が機器を操作し、活用する場面が増加・拡大してきている。継続して、職員研修に取り組んでいく。
イ 安全・安心	(ア)人権に配慮した言動や行動の徹底	・「教職員一人一人が人権に配慮した丁寧な態度や言葉遣いができた」と答える教職員 100%	人権教育の全体研修会と学部会を実施。月ごとの人権目標や振り返り職員アンケートを活用した。 93.5%	A	月初めに人権目標を周知して人権意識の向上を図った。月末には職員アンケートを実施し、まとめたものを全体で共有した。肯定的な言葉かけの具体例を提示したり、ほめ方や伝え方の工夫などを掲示したりするなどし、全体で人権を意識しながら取り組むことができた。

	<p>(イ)命を守る、体制の整備と緊急対応の実践力強化</p>	<p>・「ヒヤリハット等の情報を環境整備や再発防止に活用した」と答える教職員 100%</p>	<p>児童生徒の重大事故は3件。 ヒヤリハットによる情報共有を実施。 91.9%</p>	<p>A</p>	<p>今年度は、救急車を要請する事案が3件発生（発作によるもの1件、人工呼吸器装着児の対応によるもの1件、運動中の骨折によるもの1件）。今後も、事前に対応の在り方を十分に検討するとともに、事故発生時の職員への周知方法も含めて改善を図る。</p>
		<p>・マニュアルを教職員が理解し、「有事の際の動きが分かって行動できる」と答える教職員 100%</p>	<p>災害、緊急捜索、不審者対応等の訓練を実施。 96.8%</p>	<p>A</p>	<p>職員会議で避難訓練を検討するときには、危機管理マニュアルを開いて自分の役割について確認するようにしたことで、落ち着いて避難訓練を行うことができた。また、毎回訓練後に振り返りを行い、マニュアルの修正箇所をチェックし、実際に即した内容に修正することができた。</p>
<p>ウ 連携</p>	<p>(ア)よりよく生きるための関係機関等との協働強化。</p>	<p>・ニーズに応じた関係者会議や学習会を設定したり、情報共有したりして、「必要に応じて保護者や関係機関と連携して取り組んだ」と答える教職員 90%</p>	<p>児童生徒の状況やニーズに応じて、関係者会議を設定したり情報共有したりして、保護者や関係諸機関と連携している。 96.7%</p>	<p>A</p>	<p>校内支援会議5回（2名）、関係者会議8回（5名）実施。今後の支援の方向性について検討し、情報共有をすることができた。また、中遠地区特別支援学特別支援教育コーディネータ研修会に参加し、対応力向上に努めた。今後もセンター的機能を発揮し、地域の特別支援教育の充実を図りたい。</p>
		<p>・校内の専門家(看護師、SC)や校外の専門家(P T、O T、学校医、医ケア指導医相談員等)の活用が「有効であった」と答える教員の評価 90%</p>	<p>医療的ケアに関しては校内看護師と連携を図って取り組んだ。また、SCやPT、OT、学校医、医ケアの指導医相談員等を招いて指導・助言を仰ぎ、効果的に指導に役立てた。 94.3%</p>	<p>A</p>	<p>外部の専門家から得た知見などについては、「自立活動課便り」を発行するなどして、職員に周知を図った。姿勢のこと、箸やハサミの使い方、発話の不明瞭さやこだわりへの対応など、指導のヒントになるものを職員で共有することができた。今後も継続して取り組み、児童生徒の自己実現を支える職員の指導力向上を目指していく。</p>
	<p>(イ)地域資源(人・もの・こと)への深い理解とそれを活かした実践や発信</p>	<p>・「ふれあい活動を実施し、地域資源(人・もの・こと)を利用できた」と答える教職員 100%</p>	<p>『ふれ活』を実施し、地域資源(人・もの・こと)を利用している。 98.4%</p>	<p>A</p>	<p>「ふれ活」では、例年の活動に加えコミュニティスクールコーディネーターと連携し、新規の地域人材を活用して、実施することができた。</p>

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に向けた作品展や日頃の学習活動を公開して、「児童生徒の理解啓発につながった」と答える教職員・外部評価 100% 	<p>地域の方々に向けた居住地での作品展や日頃の学習活動の公開などを通して、児童生徒の理解啓発につながっている。</p> <p>98.3%</p>	A	<p>地域の図書館で作品の展示を実施。全国展、手足の不自由なこどもの絵画写真展にも出品し、広く地域の人たちにも本校の児童生徒の作品や学校のことを周知することができた。</p>
エ チ ム	(ア)働きがいのあ る職場の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職員が協働することで、より良い成果を目指して、業務に関する課題を解決できた」と答える教職員 100% 	<p>教職員が協働することで、よりよい成果を目指し、業務に関する課題を解決している。</p> <p>89.5%</p>	B	<p>心理的安全性の確保に向け、アンガーマネジメントやアサーションの研修に取り組み、短時間勤務や時差勤務など、多様な働き方をする方が増えてくる中で、お互いに考え方やライフスタイルを尊重し合い、協働して成果を上げることができた。</p>